

	内容別・課題別の課題分析 (知識、技能)	具体的な授業改善策	評価・反省
国語	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の書き取りが苦手な児童が多い。 語彙が少なく、自分の思いを的確な言葉で表現することに課題がある。 文章を書く際に、主語・述語の関係がねじれてしまう児童が多い。 文章を書く際に具体例を詳しく書くことに苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字学習の方法を指導し、児童が練習した字をプレテスト等でチェックする機会を設定する。(宿題チェックを含む) 意味の分からない言葉の意味を調べたり、教えたりして児童の知識を増やす。正しい日本語の使い方について指導する。 文章を短く書くことや、読み直すことを指導し、主語と述語の関係に気付きやすくするなど、正しい文法が使えるように練習する。 教師の作成したモデル文や、良く書くことができていた友達の文章をもとに書き方のコツを指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字指導やモデル文の活用により、書くことへの意識が高まり、文の構成や表現に改善が見られた。 語彙力や文法面には引き続き課題があるため、日常的な言語活動や推敲の機会を充実させ、よりの確な表現力の向上を図っていききたい。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 社会科の学習内容を生活との関連を踏まえて理解することができていない児童が多い。 基礎的な資料から必要な情報を適切に調べ、まとめる技能の習得に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会で起きている様々な現状を捉え、授業の中で指導していく。そこで身近なことに関連させるように授業を展開する。 複数の表やグラフを比較して、必要な情報を読み取る活動を取り入れ、まとめさせる指導を行い、定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な事象と関連付けた指導により、社会的事象を自分事として捉える姿が見られた。資料を基に考えまとめる力も伸びた。 読み取った内容を、根拠をもって説明する力には差があるため、比較の視点やまとめ方を明確にし、社会的な見方・考え方をさらに深められるようにしていく。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 整数のかけ算やわり算の筆算への理解が不十分で、小数のかけ算やわり算の計算技能の習得に課題がある児童がいる。 問題の意図を捉えられず、立式することに課題がある児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別クラスにおいて、2けたのかけ算の復習を取り入れたり、A I型学習教材「キュピナ」やベーシックプリントを活用したりして、整数のかけ算やわり算の問題に繰り返し取り組ませる。その上で、小数点を移動して計算する意味を指導し、筆算の中にも書き込ませて可視化しながら習熟を図る。 数直線を用いて2つの量の関係を正しく捉えられるようにする。図と式を対応させながら数値や演算の意味を明確にできるように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 反復練習や教材の活用により、計算への取組が定着し、図や数直線を基に立式を考えようとする児童が増えた。 計算技能の定着や問題文の正確な読み取りには個人差があるため、既習事項の振り返りと図・式・言葉を結び付ける活動を継続していく。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 問題に対して自分なりの予想を立てたり、実験の方法を自ら考え、意味を理解したりすることに課題がある。 実験の結果を正確にまとめ、そこから考察することが難しい児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> すぐに教科書の実験を行うのではなく、課題を解決する方法を自分で考える時間を確保する。 なぜ、そのような実験をするのかを考え、理解させる。また、既習事項や経験を根拠に予想を立てさせることで、友達の考えと比較しながら考察を導けるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 予想や方法を考える時間を設けたことで、自分の考えをもって学習に臨む姿が増え、考察しようとする態度も育ってきた。 結果の整理や考察の記述には継続した支援が必要なため、記録の仕方や考察の視点を明確にし、科学的に考える力をさらに高められるようにしていく。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱では、一人一人が思いをもって歌うこと、お互いを聴き合いながら音を重ねることができるようになりたい。 器楽では、自分の音だけでなく全体の響きや伴奏を聴いて音を合わせて演奏できるようにすることが課題である。 鑑賞では、曲の特徴を捉えて聴いたり、曲の良さを言葉で伝えたりすることに個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 楽譜や歌詞を読んだりして曲の特徴を捉え、どのように歌いたいかな伝えあう機会を多く設ける。また、少人数で聴き合う活動を取り入れる。 クラスを2つに分けてお互いの演奏を聴き合っ感じたことを発言したり、伴奏を聴きながら自分のパートを心の中で歌ったりして、全体の響きを意識して演奏できるようにする。 知覚・感受したことをワークシートに記入し、多様な考えを全体で共有したり、対話的な学習を取り入れたりと、他者の意見を聞いて考えを深めたり、自信をもって発言できるように指導していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱では、歌詞をよく読んで思いを込めて歌うことができる児童が多くなった。二部合唱でも音の重なりを意識して歌うことができた。 器楽合奏では、自分のパートをまずはしっかり演奏できるようにすることを中心に、全体で合わせた。パートの役割も意識できるようになった。 鑑賞では、知覚・感受したことを言葉で表すことはできるが、表し方のバリエーションを増やしていきたい。
図工	<ul style="list-style-type: none"> どう表したらよいか分からず自信をもって表現できない児童がいる。 表したいイメージはあるが、時間がかかりすぎてしまうなど活動の見通しがもてない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 参考作品を授業の始めや活動の合間に提示し、イメージを共有する。周りの意欲を喚起するとともに児童のアイディアを価値付ける。 一つ一つ確認して取り組めるよう、時間を区切って課題を与える。また、個別対応で声を掛ける場面を増やしたり、友達との教え合いをすすめたりして、周囲のサポート環境を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の発想を楽しむだけでなく、友達の発想に興味をもったり、興味・関心を寄せたりする児童が増えている。 時間の見通しや活動の提示を心掛け、時間内に表現を深められる児童が増えた。

家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・学んだことを生活の中に生かし切れていない児童が多い。家族の一員としての意識に課題があり、実践できていない。 ・手縫い、ミシン縫い等の技能習得状況に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で学んだことを家庭生活で生かせるように授業を計画する。また、家庭にも協力を依頼する。 ・1人1台端末などを活用して、縫い方の方法等をわかりやすく工夫する。また、個別に指導するとともに、グループ学習や教え合いを取り入れ、身に付けさせていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭生活と関連付けた指導や教え合いにより、学習内容を生活に生かそうとする意識が高まり、技能面にも伸びが見られた。 ・継続した実践や技能の活用には個人差があるため、家庭との連携を深め、基礎技能を繰り返し確認できる活動を充実させていく。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・マット運動や鉄棒運動など技能を高めるためのコツを自ら見付けたり、考えたりする力に課題がある。 ・友達と話し合い、自分や自分たちの課題について克服しようとする力が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動きのポイントを明確にし、グループで取り組みせ、互いに動きの確認ができるようにする。 ・友達の動きにも注目させ、よいポイントを見つけることで自分の実践にも生かせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループでの確認や見合う活動を通して、動きのポイントを意識して練習する姿が見られた。 ・自分の課題を言葉で整理し、よりよい練習方法を考える力をさらに伸ばしていくために、振り返りや話し合いの場を充実させていく。